

櫟原のオハキツキ

平群町 生駒山口神社

秋の大祭の前に 祭神を家に迎える

「櫟原のオハキツキ」は、秋の大祭の1週間前に、生駒山口神社の祭神である男神様と姫神様が氏子の家にお渡しし、祭り前日の宵宮に神社へ帰っていく行事です。祭神を迎える氏子を「本当屋」と呼び、毎年、地域の家が順番に受け持ちます。

本当屋の庭には「オハキ」と呼ばれる、祭神の依代（仮の居場所）を作ります。オハキを築くことから、一連の行事を「オハキツキ」といいます。

お渡りの儀式では、神社で祭神を櫛に移し、行列を組んで本当屋宅に向かいます。宵宮の日に祭神が神社へ帰る「遷幸」の時にも同じように行列を組みますが、男神様と姫神様の2回に分けて行います。姫神様の遷幸は真夜中に行うのですが、これは、姫神様が恥ずかしがらないようにするためだといわれています。

本当屋宅に作られるオハキ



本当屋宅から神社への遷幸

お渡りと遷幸で使う道は、神様の通り道なので、人や車とすれ違わないようにしています。

平群町櫟原にある生駒山口神社の秋の大祭の前に、地域で行われる伝統行事です。
宮司の杉下里美さんと氏子の高村樹慶さんにお話を伺いました。

行事の準備は田植えから

オハキは、その年の本当屋のいる組の氏子で協力して、9月末に作ります。まず、骨組みとして、近くの山から切り出した切っても芽の出る7種類の木を、上に広がる円型に組みます。この骨組みに竹を編み、石や砂を入れて、周りを杉の葉で覆います。一番上には、漆の木で作った鳥居を立てます。そうしてできたオハキの周りに、しめ縄で境界を張って完成です。

行事で使う米や藁には、本当屋の田んぼで育てた稲を使います。通常の稲刈りより前に行う行事なので、いつもより早めに田植えを行う必要があります。

一生に一度の巡り合わせ

お渡りから遷幸までの6日間は、本当屋によって祭神が祀られます。また、オハキには近隣の皆さんもお参りにきます。

本当屋は、櫟原の5組70世帯くらいが交代で受け持つので、一生に一度回ってくるかこないかという大役です。これからも地域のみんなが受け継いでいきたいです。



宮司の杉下さんと氏子の高村さん



生駒山口神社 所平群町櫟原

10月第2日曜日に行われる秋の大祭の
1～2週間ほど前から一連の行事が行われます

問平群町教育委員会事務局 ☎0745-45-2101

行って
みよう！